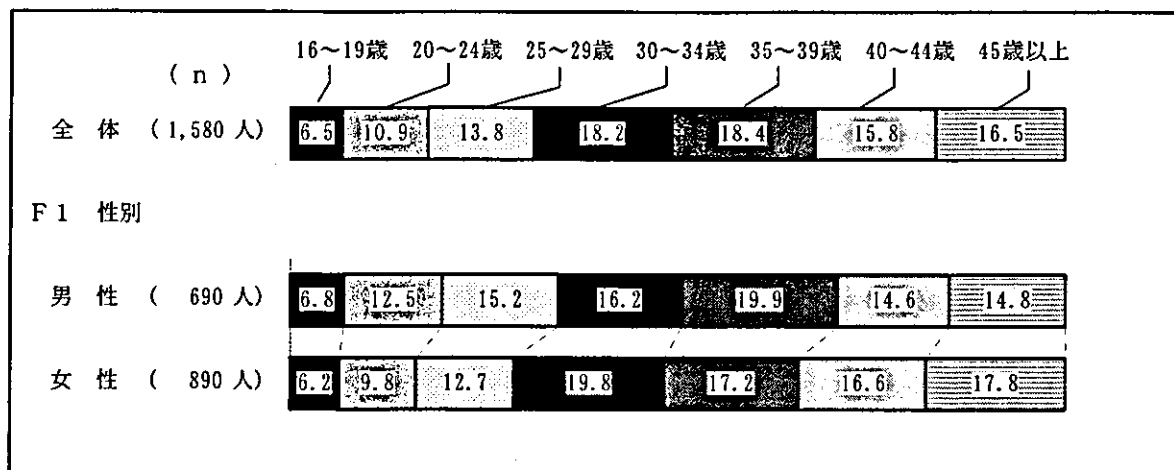
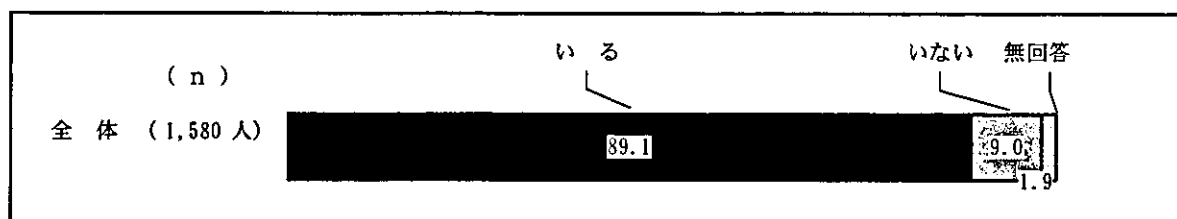


(3) 年齢

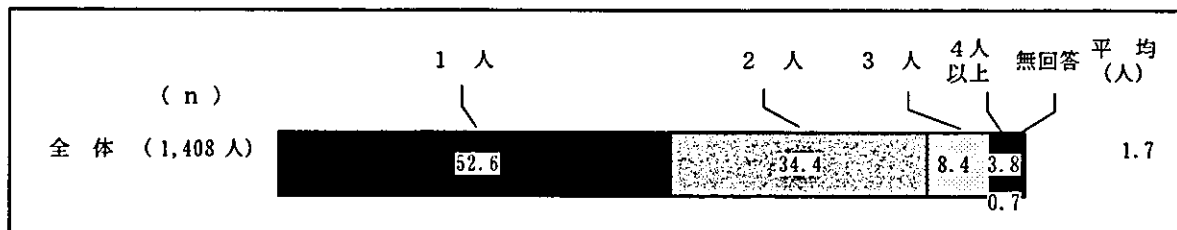


(4) 兄弟姉妹の有無と人数

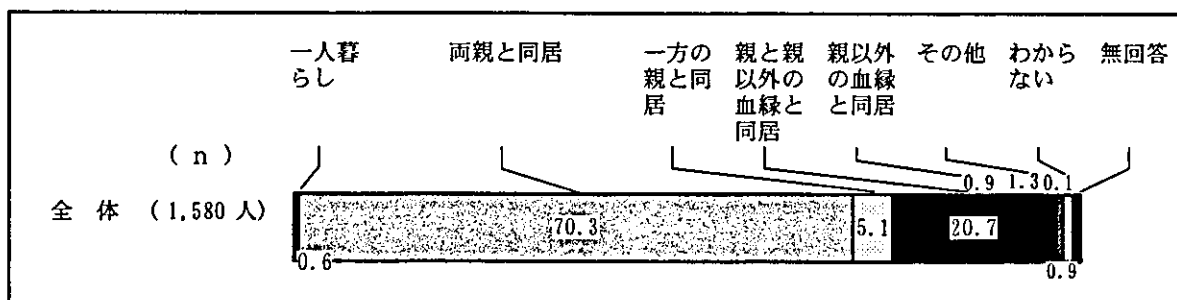
●兄弟姉妹の有無



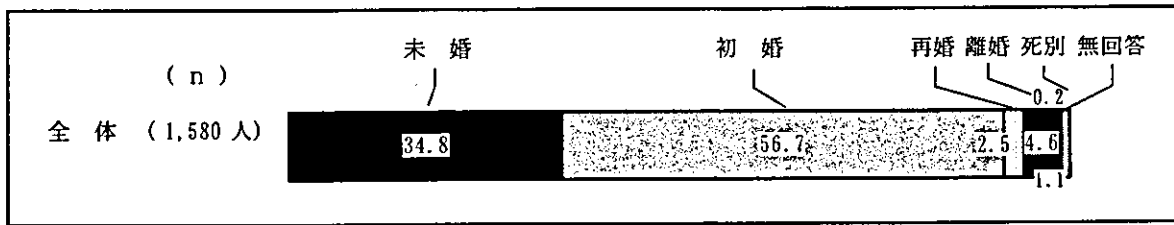
●兄弟姉妹の人数



(5) 中学生時代の家族形態

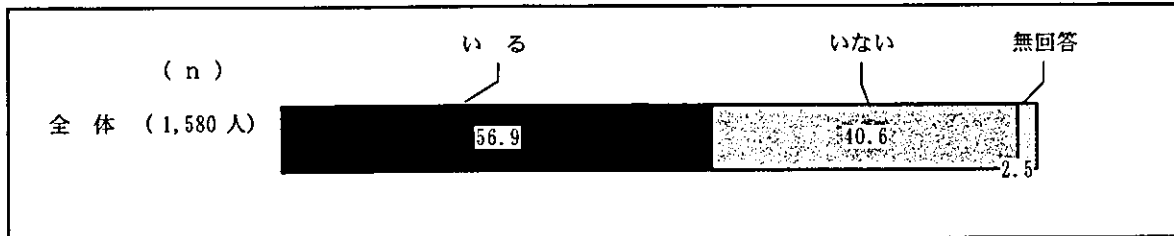


(6) 未既婚

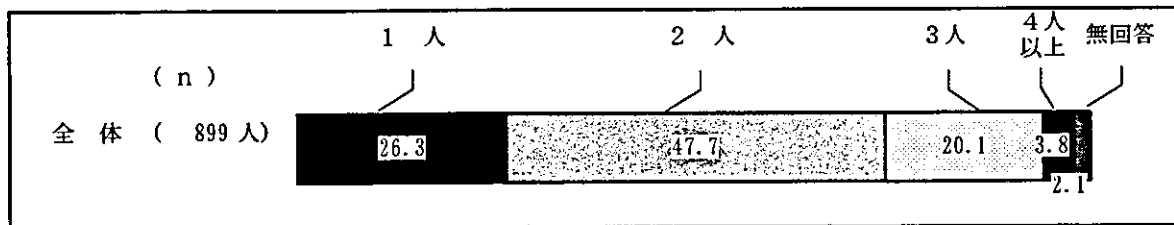


(7) 子どもの有無

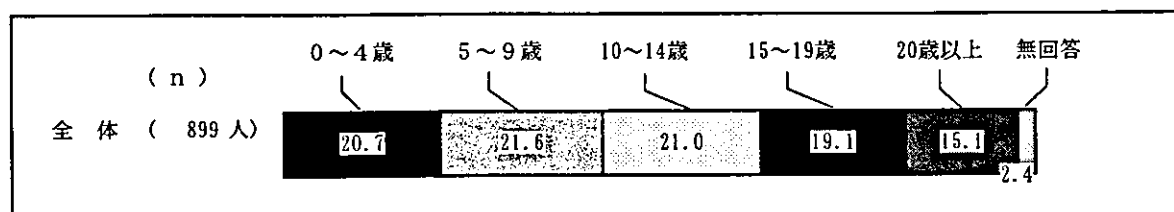
●子どもの有無



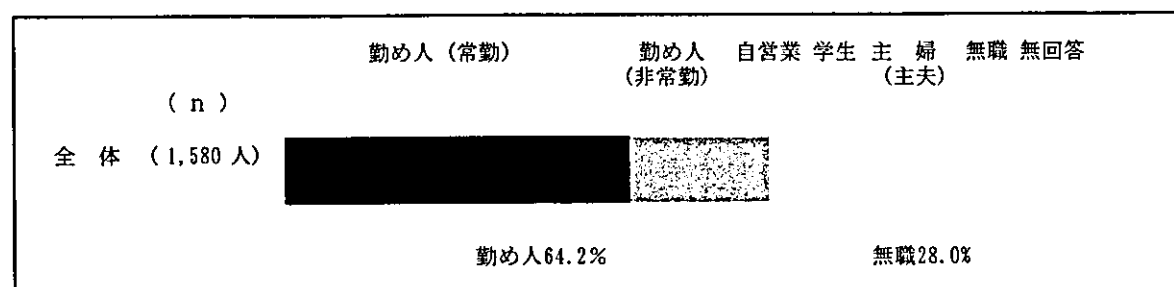
●子どもの人数



●長子年齢



(8) 職業

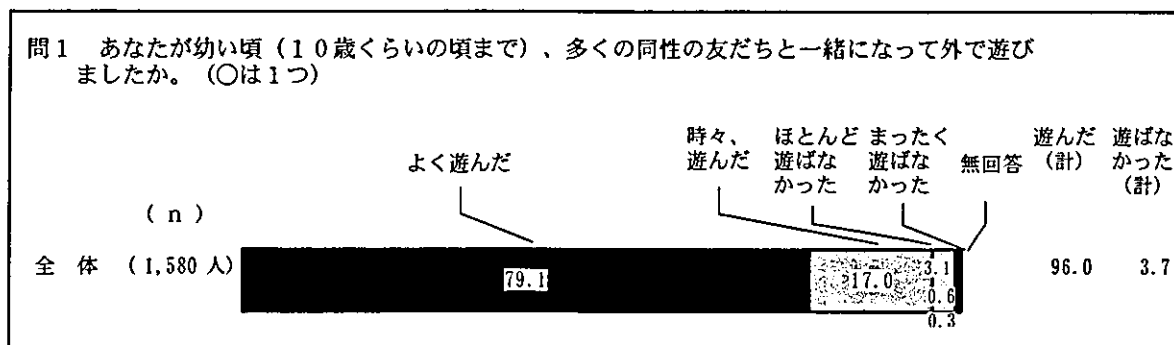


Ⅱ 調査結果の概要

Ⅱ 調査結果の概要

第1章 これまでの日常生活や考え方

1 幼い頃の同性の友人との関わり

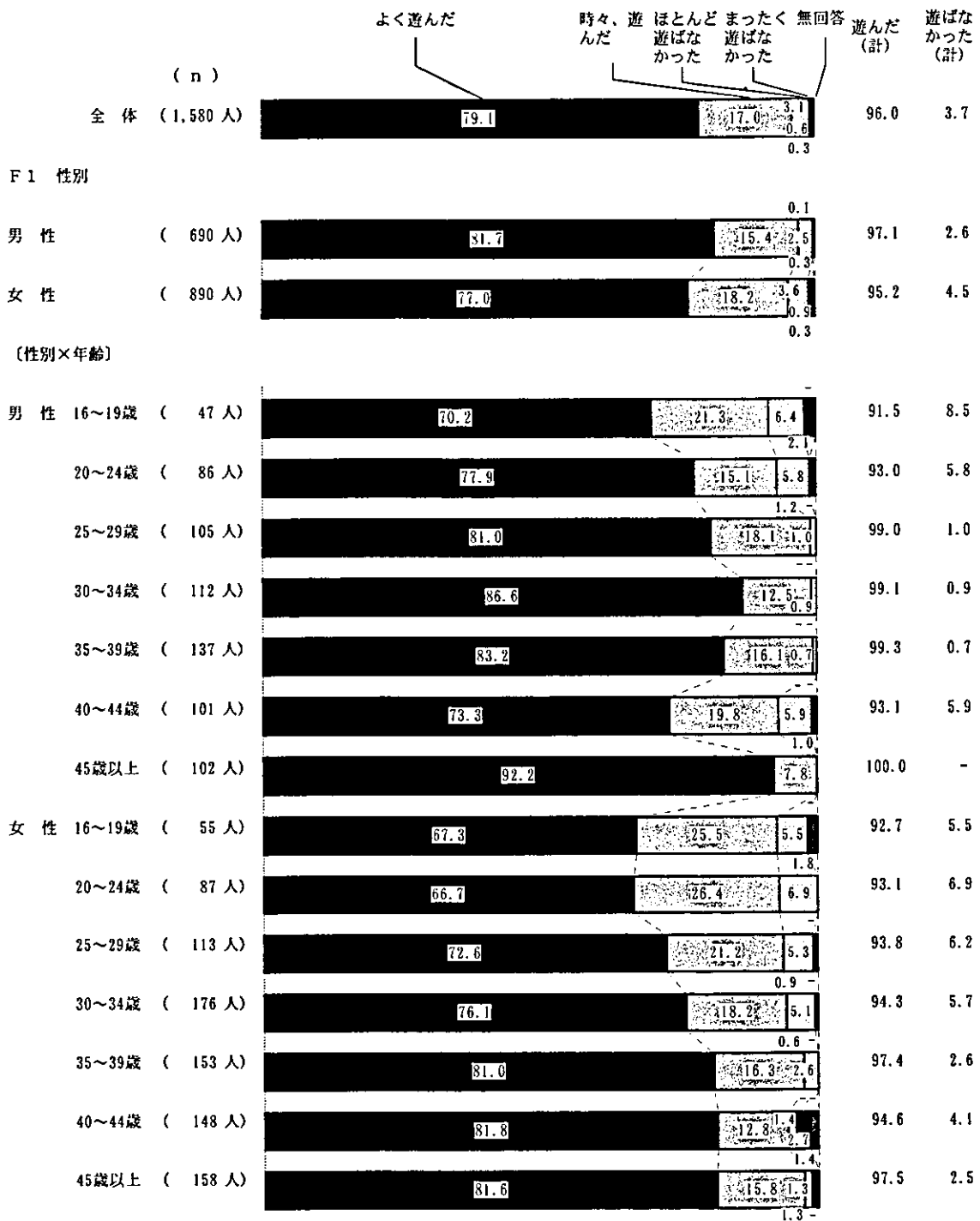


10歳くらいの幼い頃まで、多くの同性の友だちと一緒に外で「よく遊んだ」（79.1%）という者はほぼ8割で、「時々、遊んだ」と言う者を合わせると、ほとんどの者が同性の友人と『遊んだ』と答えている。

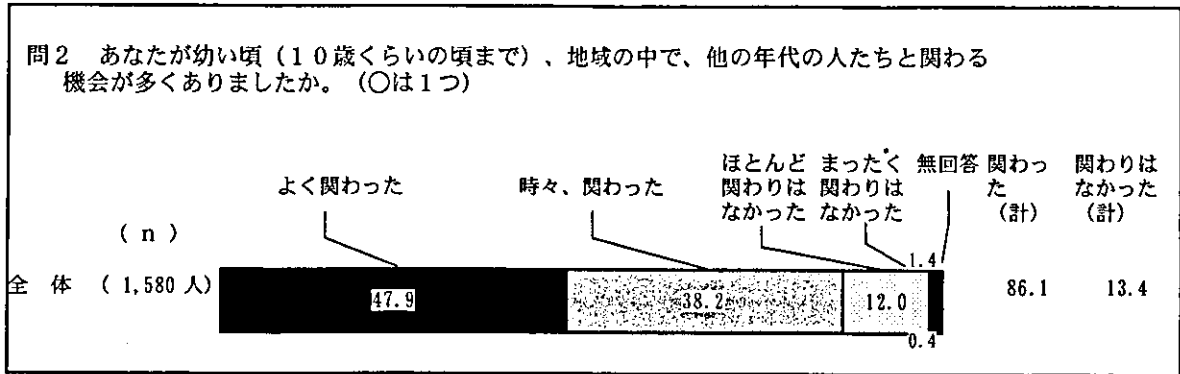
性別にみても（図1-1-1）、大きな差はみられない。

性・年齢別にみると（図1-1-1）、男女とも年齢層が高くなるほど「よく遊んだ」という者が多くなっており、特に男性の45歳以上では9割以上が「よく」遊んだと答えている。

図1-1-1 幼い頃の同性の友人との関わり（性別、性・年齢別）



2 幼い頃の、他の年代の人たちとの関わり



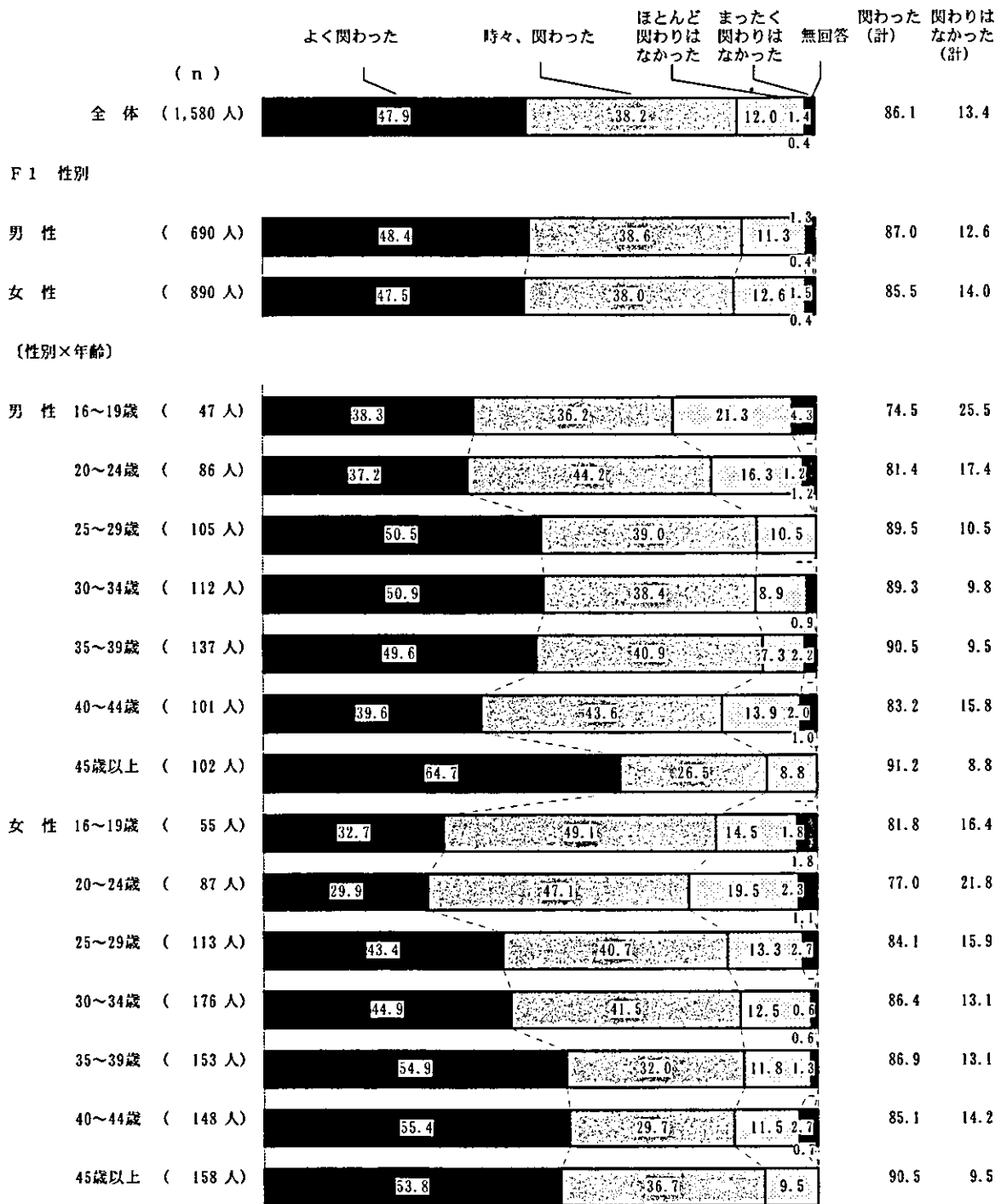
10歳くらいまでの幼い頃、地域の中で、他の年代の人たちと「よく関わった」（47.9%）という者は半数近くおり、「時々、関わった」（38.2%）という者を合わせると9割近くが、他の年代の人と関わっていたと答えている。

「ほとんど関わりはなかった」（12.0%）という者は1割強である。

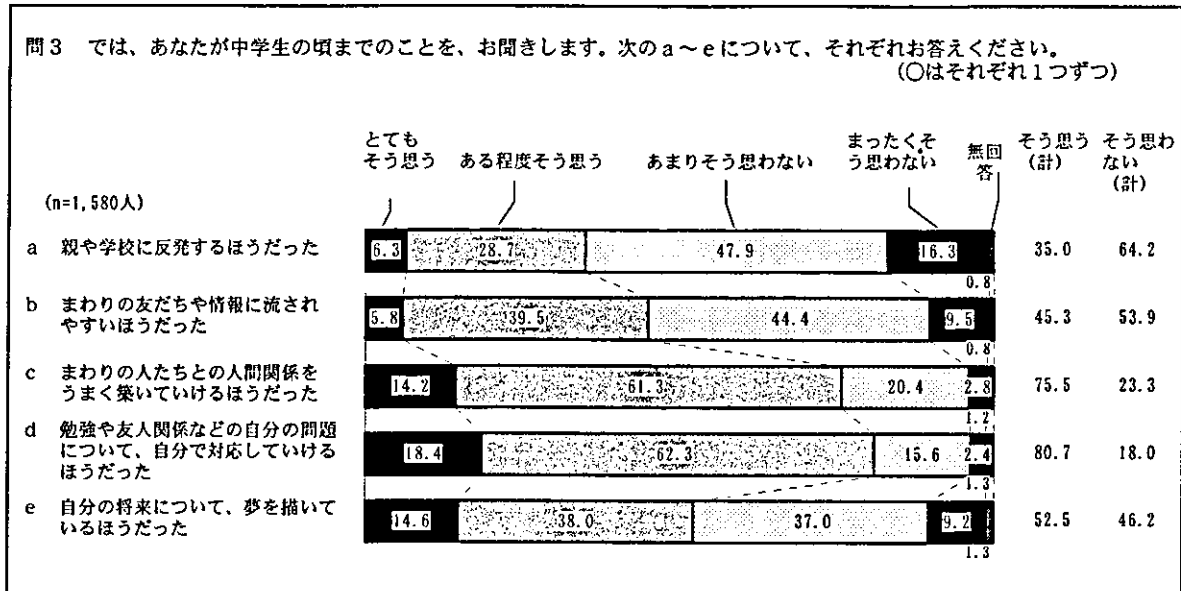
性別にみても（図1-2-1）、大きな差はみられない。

性・年齢別にみると（図1-2-1）、男女とも年齢層が高くなるほど、幼い頃に地域の中で、他の年代の人たちと「よく関わった」という者が多くなる傾向がある。

図1-2-1 幼い頃の、他の年代の人たちとの関わり（性別、性・年齢別）



3 中学生の頃までの生活



中学生の頃までの生活を“親や学校に反発するほうだった”“まわりの友だちや情報に流されやすいほうだった”“まわりの人たちとの人間関係をうまく築いていけるほうだった”“勉強や友人関係などの自分の問題について、自分で対応していけるほうだった”“自分の将来について、夢を描いているほうだった”の5項目について聞いた。

「とてもそう思う」と積極的に肯定する者が最も多かったのは、“勉強や友人関係などの自分の問題について、自分で対応していけるほうだった”(18.4%)で、2割弱となっており、「ある程度そう思う」(62.3%)という者を合わせると、8割は“自分で対応していった”と考えている。

次いで“自分の将来について、夢を描いているほうだった”と“まわりの友だちや情報に流されやすいほうだった”は、「とてもそう思う」(将来に夢14.6%、流されやすい14.2%)と積極的に肯定する者がともに1割台であるが、“夢を描いているほうだった”ことについては、「ある程度そう思う」(61.3%)という者が6割強となっており、4人に3人は“夢を描いて”いたと答えている。

次にそれぞれの項目について、性別と性・年齢別にみていく。

まず、“親や学校に反発するほうだった”を性別にみると(図1-3-1)、「とてもそう思う」(男性7.4%、女性5.5%)という者は男女とも1割に足らずで差はみられないが、「ある程度そう思う」(同31.2%、26.7%)という者は女性より男性にやや多くなっている。

性・年齢別にみると(図1-3-1)、「とてもそう思う」もしくは「ある程度そう思う」と答えた、自分は中学生の頃“親や学校に反発するほうだった”という者は若年層ほど多い傾向がある。

“まわりの友だちや情報に流されやすいほうだった”を性別にみると(図1-3-2)、「とてもそう思う」(同5.5%、6.1%)という者に男女差はみられないが、「ある程度そう思う」(同42.0%、37.5%)という者は女性より男性にやや多くなっている。

性・年齢別にみると(図1-3-2)、男女とも20代の前半では「とてもそう思う」(男性11.6%、女性12.6%)という者が1割強と、他の年齢層よりやや多くなっており、「ある程度そう思う」と答えた者を合わせると、“まわりに流されやすいほうだった”という者は男性の34歳までと、該当数は少ないが女性の16～19歳の年齢層で過半数となっている。

図1-3-1 中学生の頃までの生活-“親や学校に反発するほうだった”(性別、性・年齢別)

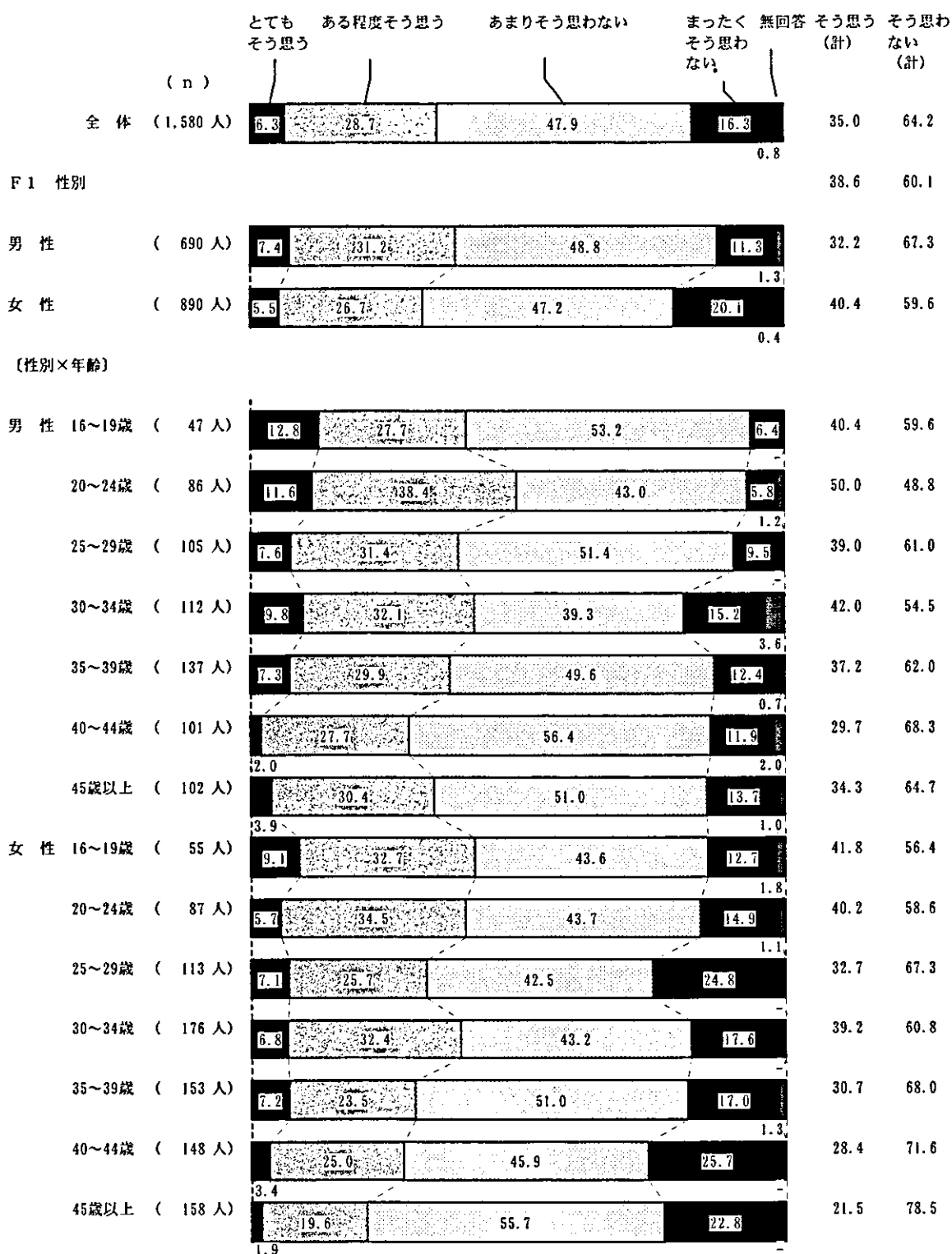
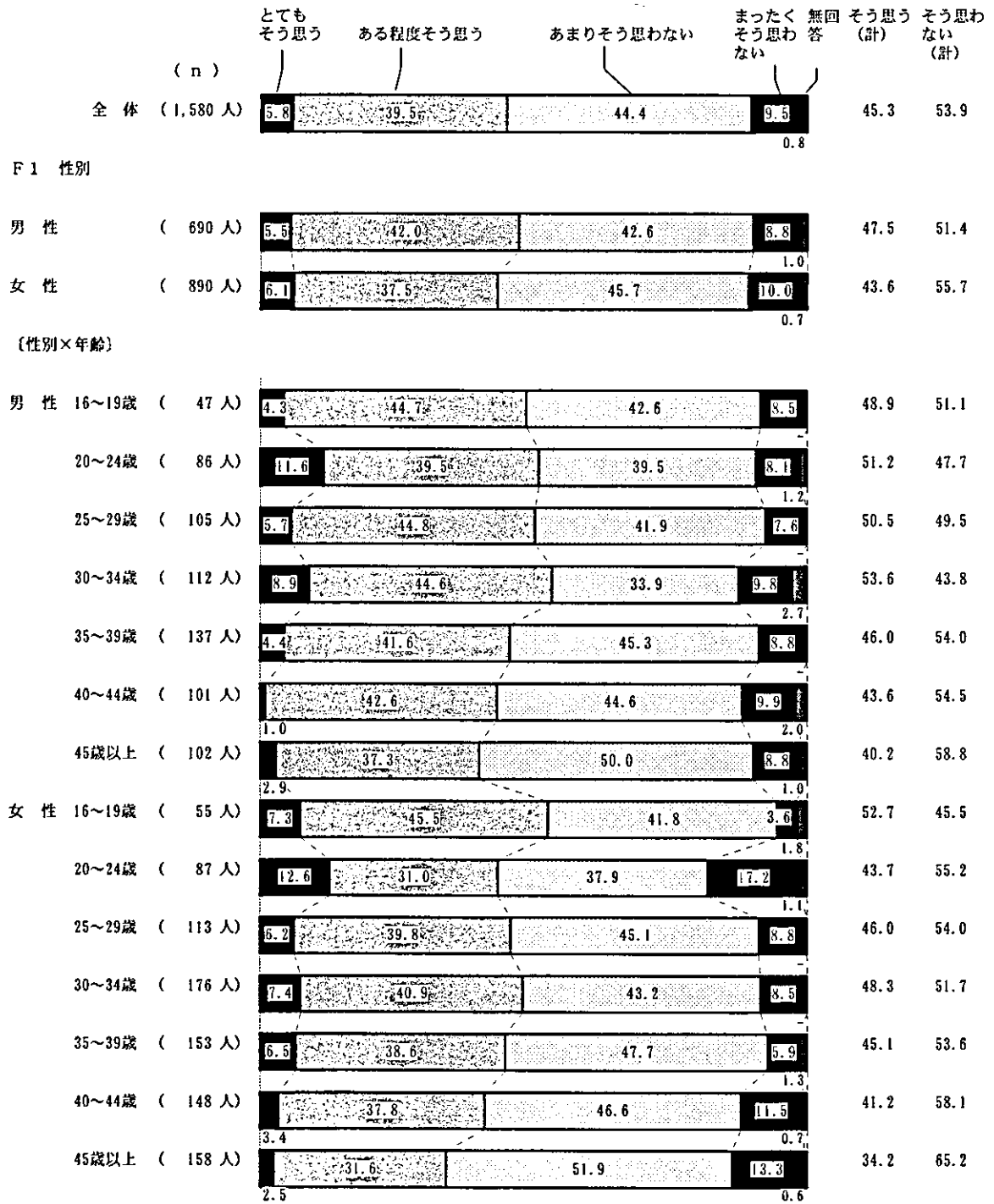


図1-3-2 中学生の頃までの生活-“まわりの友だちや情報に流されやすいほうだった”

(性別、性・年齢別)



“まわりの人たちとの人間関係をうまく築いていけるほうだった”について性別にみても（図1-3-3）、差はみられない。

性・年齢別にみると（図1-3-3）、女性の20～24歳と30～34歳の年齢層で「まったくそう思わない」（ともに3.4%）もしくは「あまりそう思わない」（20～24歳26.4%、30～34歳26.1%）と答えた“人間関係をうまく築いていけるほう”ではなかったと考える者が3割と、他の年齢層よりやや多くなっている。

“勉強や友人関係などの自分の問題について、自分で対応していけるほうだった”かどうかを性別にみると（図1-3-4）、「とてもそう思う」（男性19.1%、女性17.9%）もしくは「ある程度そう思う」（同58.3%、65.4%）と答えた“自分の問題について、自分で対応して”いけていたと考える者は男性より女性に多くなっている。

性・年齢別にみると（図1-3-4）、女性の45歳以上の年齢層では「とてもそう思う」（17.7%）もしくは「ある程度そう思う」（72.2%）と答えた者が9割を占めている。

“自分の将来について、夢を描いているほうだった”を性別にみると（図1-3-5）、「とてもそう思う」（男性15.8%、女性13.6%）もしくは「ある程度そう思う」（同33.6%、41.3%）を合わせると、“夢を描いて”いたという者は男性より女性に多くなっている。

性・年齢別にみると（図1-3-5）、女性の25～29歳の年齢層で「とてもそう思う」（18.6%）もしくは「ある程度そう思う」（45.1%）と答えた、“夢を描いて”いたという者が6割を超え、他の年齢層より多くなっている。

図1-3-3 中学生の頃までの生活-“まわりの人たちとの人間関係をうまく築いていけるほうだった”

(性別、性・年齢別)

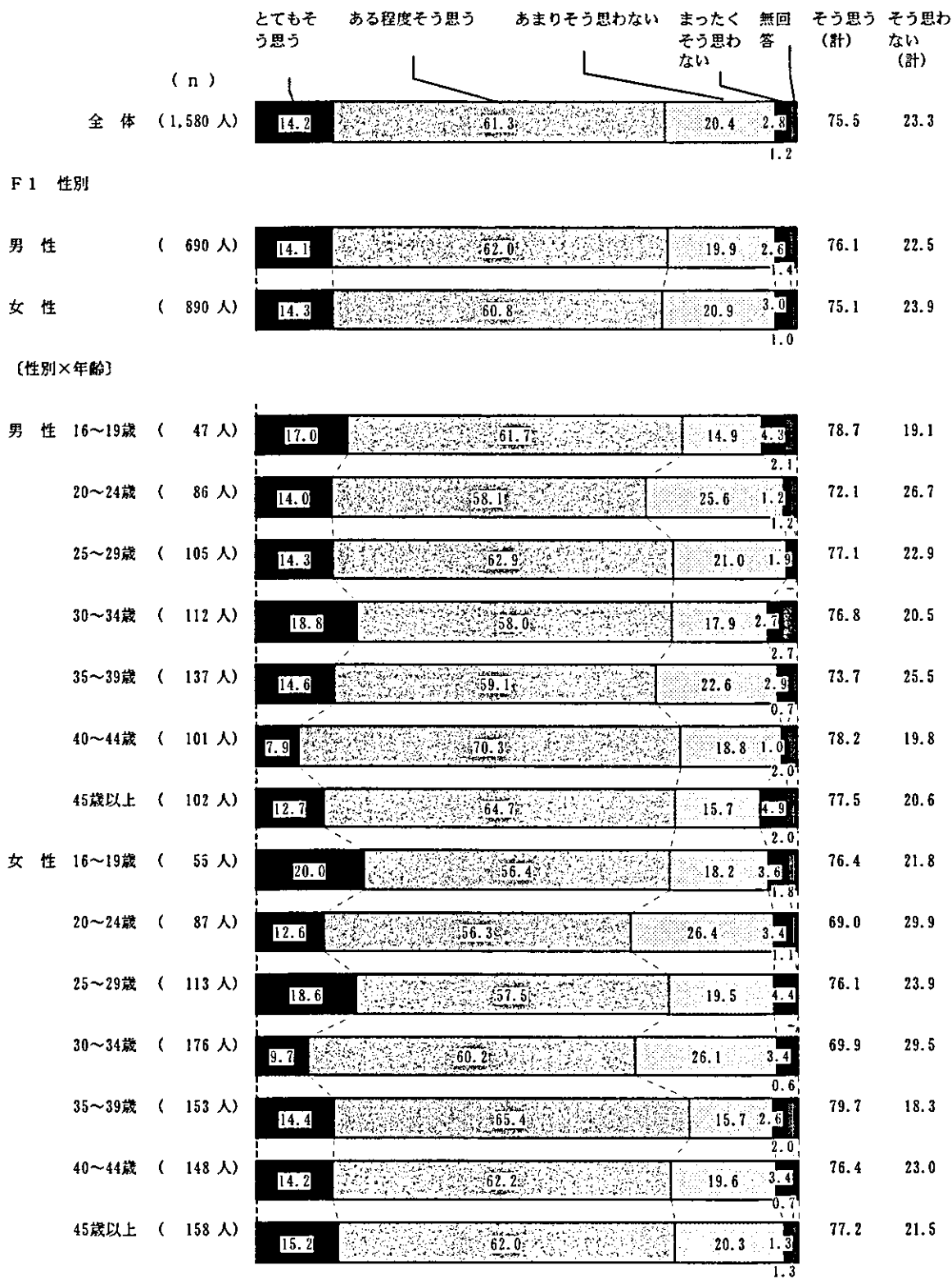


図1-3-4 中学生の頃までの生活-

“勉強や友人関係などの自分の問題について、自分で対応していけるほうだった”

(性別、性・年齢別)

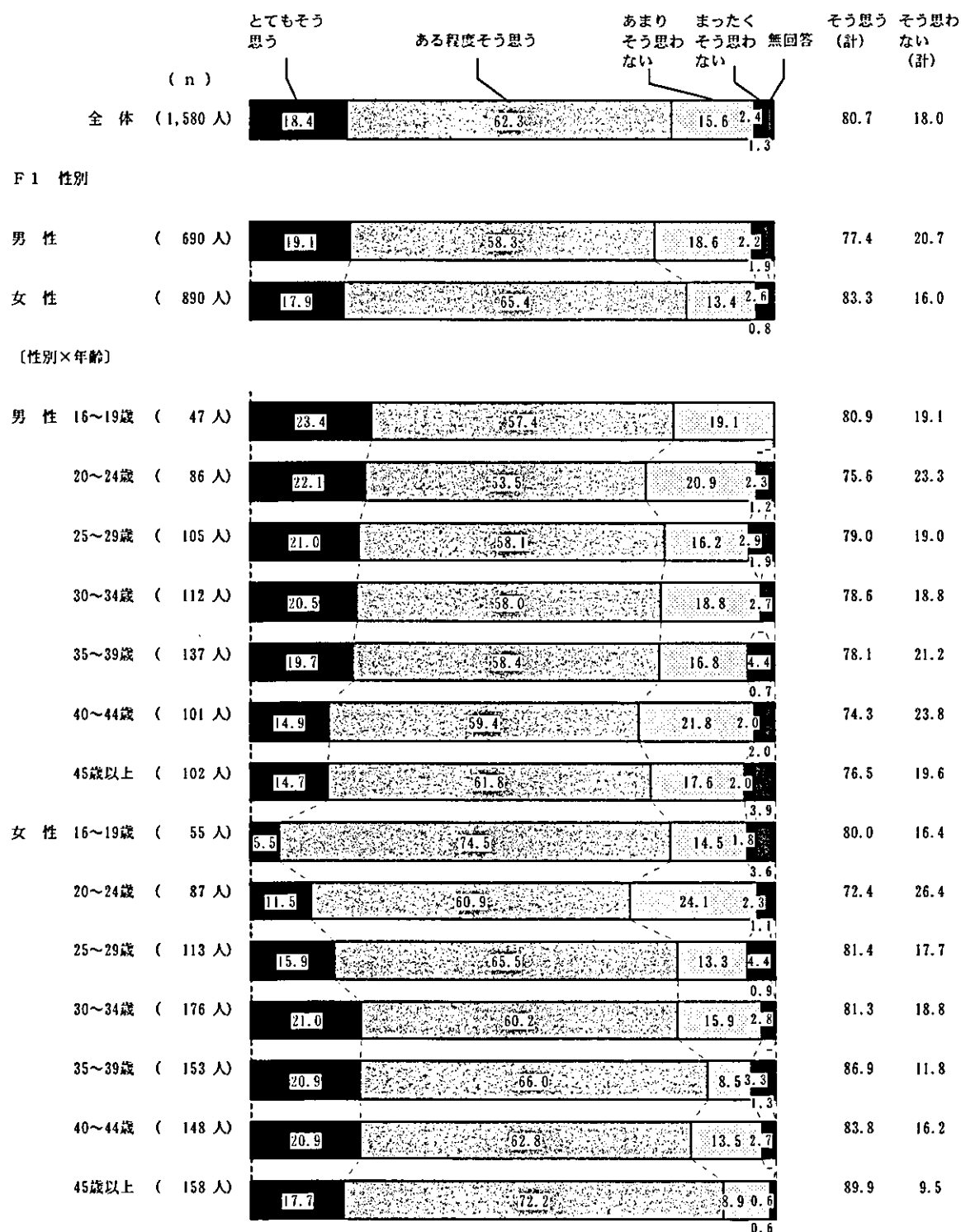
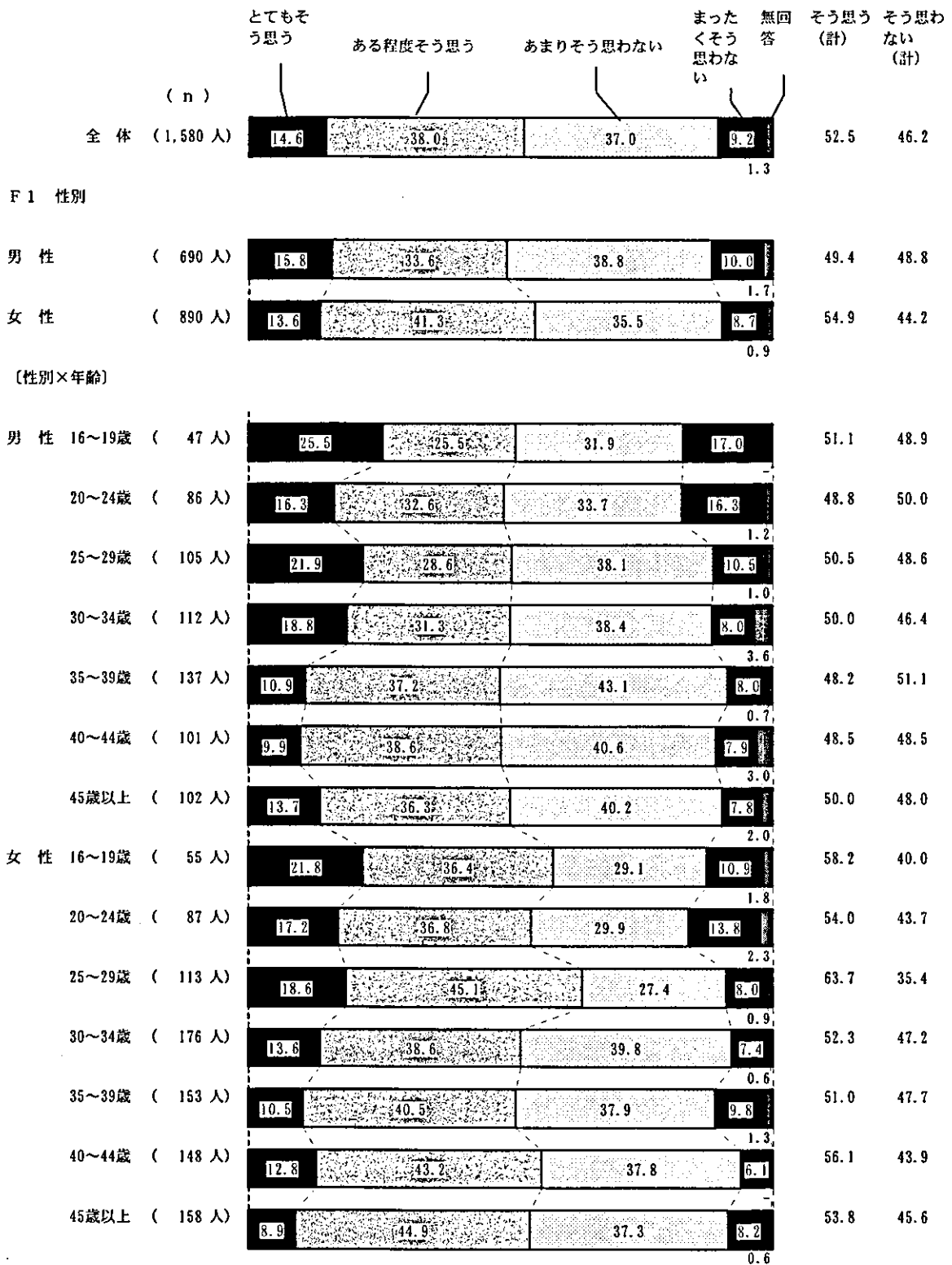
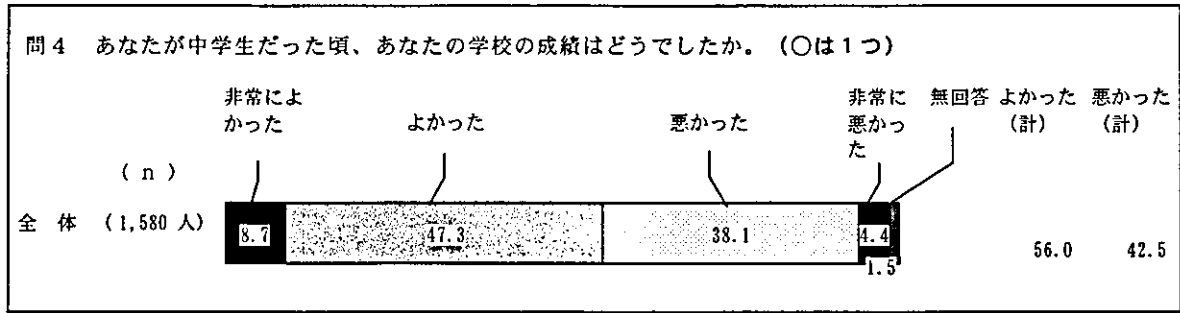


図1-3-5 中学生の頃までの生活－“自分の将来について、夢を描いているほうだった”

(性別、性・年齢別)



4 中学生の頃の成績

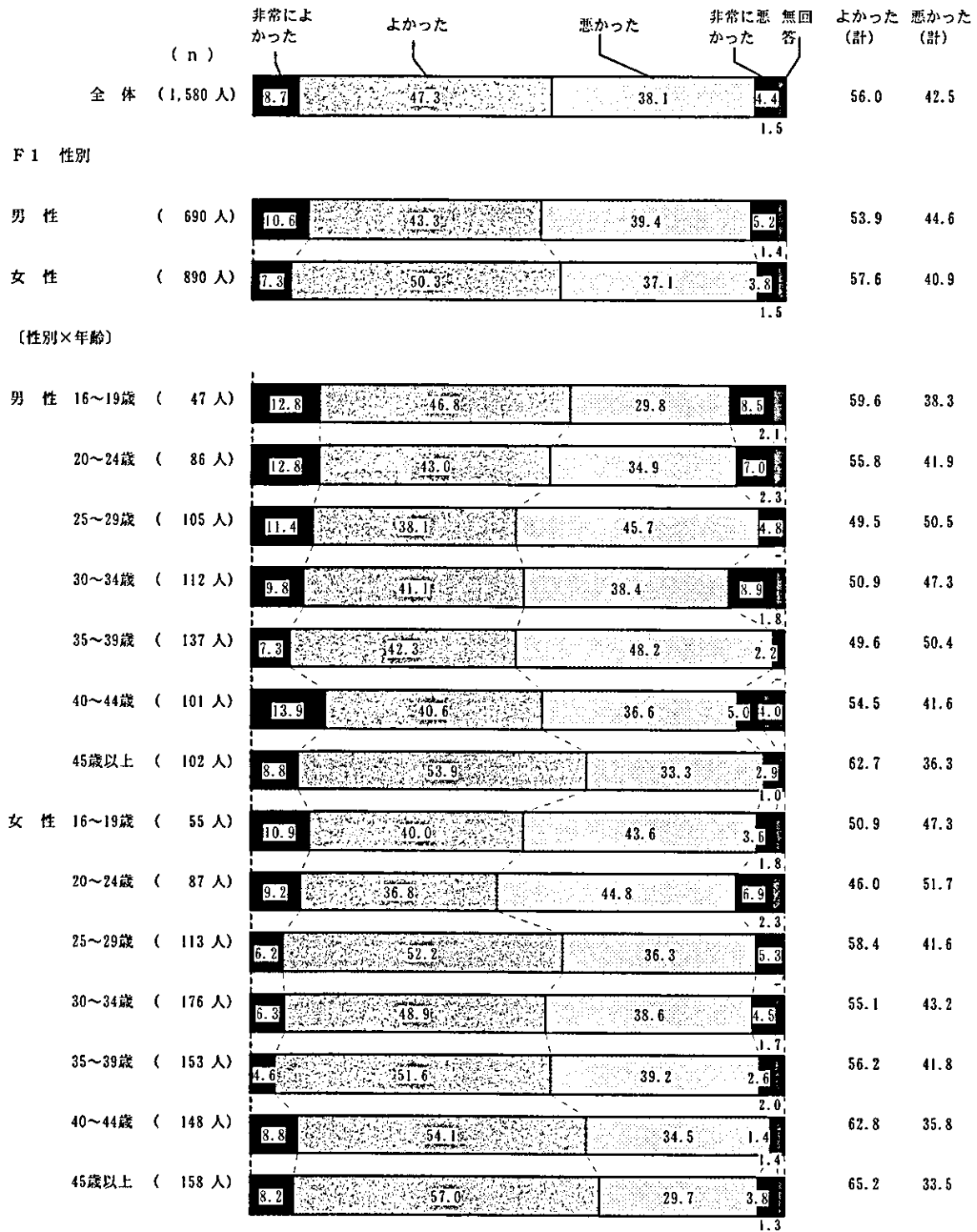


中学生の頃の学校の成績を聞いたところ、「非常に良かった」という者は 8.7%で、「よかった」(47.3%) という者を合わせると、6割弱が中学生の頃の成績は『よかった』と認識している。

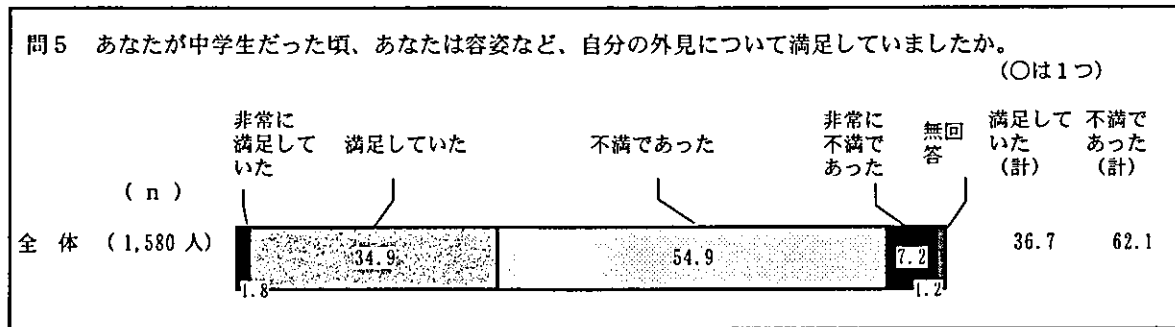
性別にみると(図1-4-1)、中学生だった頃の成績が『よかった』(「非常に良かった」+「よかった」)という者は男性(同 10.6%+43.3%)よりも女性(同 7.3%+50.3%)にやや多くなっている。

性・年齢別にみると(図1-4-1)、男性の45歳以上と女性の40歳以上で中学生の頃の成績は『よかった』と認識している者が6割を上回っている。

図1-4-1 中学生の頃の成績（性別、性・年齢別）



5 自分の外見についての意識

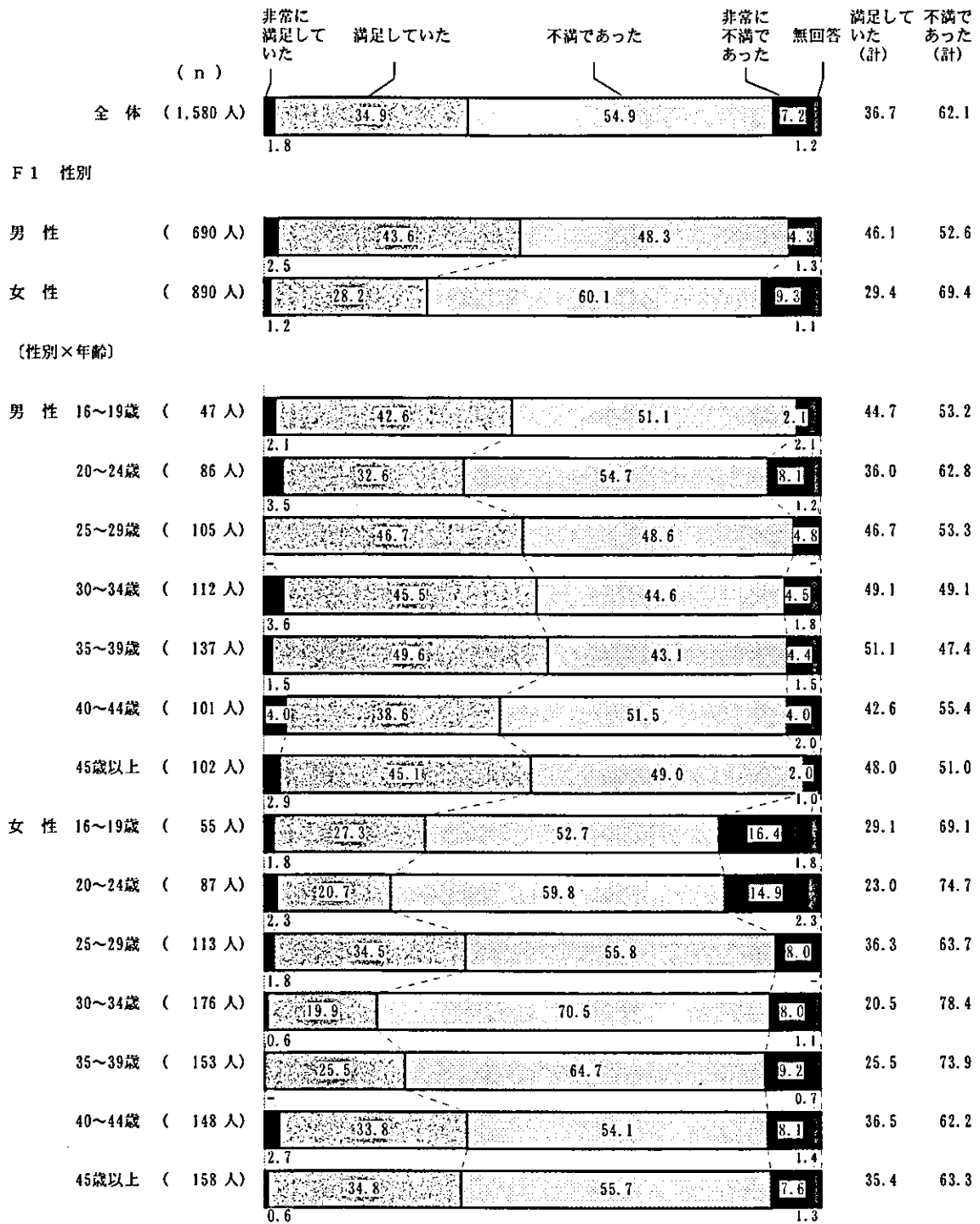


中学生の頃、容姿などの自分の外見について「非常に満足していた」という者は 1.8%で、「満足していた」を合わせると、自分の外見に『満足していた』者は4割弱である。

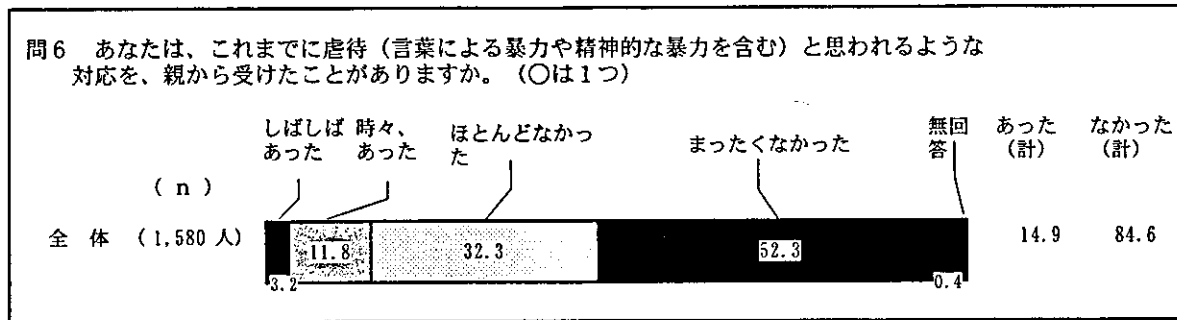
性別にみると(図1-5-1)、中学生の頃の自分の外見に「非常に満足していた」(男性 2.5%、女性 1.2%)という者に男女差はみられないが、「満足していた」(同 43.6%、28.2%)という者を合わせると、自分の外見に『満足していた』者は男性が 46.1%であるのに対して、女性では 29.4%と、17ポイントの開きがある。

性・年齢別にみると(図1-5-1)、男性の 25~39歳の年齢層で『満足していた』者が5割前後と、他の年齢層より多くなっている。

図1-5-1 自分の外見についての意識（性別、性・年齢別）



6 親からの虐待経験の有無



親から虐待（言葉による暴力や精神的な暴力を含む）と思われるような対応を受けたことが「しばしばあった」という者は3.2%で、「時々、あった」（11.8%）という者を合わせると虐待経験のある者は1割を上回る。

性別にみると（図1-6-1）、親から虐待と思われるような対応を受けたことが「しばしばあった」（男性1.4%、女性4.5%）という者は男性より女性にやや多くなっている。

性・年齢別にみると（図1-6-1）、虐待と思われるような対応を受けたことが「しばしばあった」もしくは「時々、あった」と答えた、虐待経験のある者は男性の30～34歳と45歳以上、女性の20～24歳と30～39歳の年齢層で2割前後と、やや多くなっている。

図1-6-1 親からの虐待経験の有無（性別、性・年齢別）

